

## 食育の計画作成について

- 1 「保育の目標」に沿った全体的な「保育計画」及び、具体的な「指導計画」に、食育の視点を盛り込む。

### 保育計画に食育の計画を組み込む

- ・「保育所における食育に関する指針」の中の「食育のねらい及び内容」を基に計画する。  
配慮事項：食環境の変化、地域の実態、子どもの発達、家庭状況や保護者の意向、  
保育時間
- ・乳幼児期に培うべき「食を営む力」の基礎について、一貫した系統性のあるものとして構成する。

### 指導計画に食育の計画を組み込む

- ・保育計画に基づいて計画する。  
配慮事項：子どもの食生活状況
- ・乳幼児期にふさわしい生活の中で、一人一人の子どもに必要な食体験が得られる実践が展開されるように具体的に作成する。  
(「食育のねらい及び内容」の、「実践ポイント」を参照)
- ・食事提供(給食)のための計画も含める。

- 2 「保育所保育指針」や「保育所における食育に関する指針」を参考に、各地域、各保育所の特性、ニーズを把握し展開することが重要。
- 3 計画作成、実践計画や結果の記録を残し、評価・改善に向けた定期的な会議の設置が望まれる。
- 4 計画から評価まで、保育所の全職員の連携で行う。

# 食育の計画作成のポイントについて

## 1 食育の視点を盛り込んだ「保育計画」

### 食をめぐる育ちの課題を把握し、整理する

- ・子どもを取り巻く環境や発達状況を把握するため、情報を集めて現代社会特有の食をめぐる実態を把握する。さらに情報を分析し、問題点を明らかにする。  
「食事に関するアンケート調査」結果参照（横浜市の状況）
- ・自園の子どもたちの実態も調べた上で、各園なりの保育目標を設定する。

### 保育目標に食育の視点を組み込み、基本方針を立てる

- ・「食育における5つの子ども像」を組み込む。（理想的な人間像を念頭に置き、終了の時点で期待し得る姿は何かを考え、具体的な子ども像を設定していく。）
- ・保育目標として掲げたいいくつかの姿との関連性を考えていく。

### 6年間の発達過程を見通し、ねらいと内容の系統化をはかる

- ・「我が園で生活する子どもは、6年間このような道筋で育っていく」というものを整理し、保育計画に示す。＝「ねらい」
- ・「ねらい」を実現するために必要な「内容」を考える。
- ・各期の「ねらい」及び「内容」にそった「指導上の留意点」や「環境構成」などのポイントを質的な側面に視点をあてて設定する。

### 保育計画の見直し、点検のタイミング

- ・年度末に、実践を保育計画に照らして点検し、保育計画に掲げた保育目標や「ねらい」が現状と合わなくなったら、見直しをする。

## 2 食育の「指導計画」の作成手順

### 子どもの実態を把握する

- ・子ども自身が何に興味を持ち、どのように生活しているか、その実態を把握する。
- ・「ねらい」や「内容」を考える前に、まず「子どもの姿」を書く欄を設ける。  
子どもの状況とともに、保育者として何を感じ取ったのかをあわせて書いておく。

### 子どもの活動を予測する

- ・「予想される子どもの活動」という欄を設け、予測できる限りの姿を書き込む。

週案：前週の子どもの姿をもとに、今週の行動を予測する。

活動案：子どもたちが何に興味を持っているのか、また、子どもが主体的に活動するために、どのような援助が必要かを考える。

### 具体的なねらいと内容を設定する

- ・保育者として子どもに期待すること、何を育てたいかを考える。＝「ねらい」  
「ねらい」：育ちとして期待する質的な側面のこと。子どもを主語として「心情・意欲・態度」の三側面から示される。
- ・育ちを実現するために必要な子どもの経験を何にするのかを考える。＝「内容」  
「内容」：具体的な活動のこと

### 子どもの経験、また活動の展開を考える

- ・指導計画で予測する期間内に子どもが具体的に経験する活動の展開を考える。
- ・子どもの様々な反応を具体的に予測する。
- ・予測と実践においてのズレが生じたら、実践はそのズレを捉え、柔軟に展開していく。（考えた通りの展開を子どもに押し付けるのではない）

### 指導・援助のポイント、または留意点を考える

- ・「ねらい」を念頭に置き、それが具体的に展開されている場面に目を向け、適切な指導・援助を考えておく。
- ・「指導上の留意点」という枠取りをし、そこに指導・援助のポイントを書き込む。

### 適切な環境を考える

- ・保育室が子どもの年齢に応じて生活しやすい場となっているのか、興味・関心が引き出され、それを実現できる道具や素材が豊かに用意されているのか、といったことを考え、工夫する。
- ・保育者の食に対する関心を高め、職員間の連携を大切にする。

## 3 計画の評価・改善と職員の協力体制

### 記録

- ・計画通り実践が行われたか、変更点等の記録をする。
- ・実践における子どもの様子や育ちの記録をする。
- ・記録の方法としては、文字によるものや映像、音声によるもの等がある。

## 評価

- ・子どもの育ちについて量的評価と質的評価をする。
  - 「量的評価」= 数値によって表せる評価（身長・体重など）
  - 「質的評価」= 数値によって表せない評価（意欲や取り組みの姿勢など）
- ・指導・援助のあり方の評価をする。
- ・設定した活動の妥当性の評価をする。

## 職員間の連携・チームワーク

- ・計画や評価も全職員が協力、連携して取り組む。
- ・それぞれの専門性を活かす中で、互いの役割を理解、尊重し、支え合う。

図 食育を含めた保育者の保育活動の流れ

